

みどりの東北

Midori no Tohoku

vol. 91

東北森林管理局



丸太を運搬するD-29ディーゼル機関車（森林鉄道企画展の記事は6P）

contents

「『白神を考える旬間シンポジウム』と『森を歩く集い』の開催について」

—— 特集 | 計画課

「社会貢献の森『あきぎんの森』で森林再生～クロマツ林の下刈などに70名が汗～」

—— 美しい森林づくり | 由利森林管理署

「七座山（ななくらやま）」

—— 我が署の名所 | 米代西部森林管理署



2011・国際森林年



2011・国際森林年

「白神を考える旬間シンポジウム」と「森を歩く集い」の開催について

—— 計画課

東北森林管理局では、国際森林年を記念して、9月10日(土)に弘前市総合学習センターで「白神を考える旬間シンポジウム」を、続いて翌11日(日)に白神山地世界遺産地域周辺を散策する「森を歩く集い」を開催しました。

東北森林管理局では、国際森林年のガイド関係者など約1200人が参加し、白神山地の自然に関する話題に耳を傾けました。

早稲田大学の森川教授は、なかなか緑にならない海外の緑化活動の事例から、自然科学だけでなく人間科学にも基づいた環境保全のシステム



矢部森林管理局長からの開式の挨拶

10日の「白神山地を考える旬間シンポジウム」では、「変化する白神山地の自然を探る」をテーマに、気候、植物、動物に焦点を当て、後世に残すべき自然遺産としての価値やその

保全管理手法について、学識経験者3名による講演を伺いました。当日は、地元住民のほか、大学生や白神山地



会場からの質問に答える中静教授

ニタリングの結果を基に、これまでのブナ林の変化から、シミュレーションによる今後の森林の変化についての予測結果を披露しました。また、岩手県立大学の由井名誉教授は、白神山地やその周辺におけるクマゲラや

イヌワシの繁殖率が低下している実態等を紹介し、列状間伐の導入等による採餌環境を向上させることの重要性を指摘しました。会場からは、ブナの害虫であるブナアオシヤチホコの被害状況やブナ林を守るためなどにササを刈り払うことの是非についての質問がなされました。

11日の「森を歩く集い」では、国際森林年の国内テーマ「森を歩く」にちなみ、参加者に白神山地を歩いていただき、自然遺産の価値を体感していただけるよう

- ① 暗門の滝(青森県西目屋村：津軽森林管理署管内)
- ② 高倉森などブナ林(同西目屋村：同管内)
- ③ 田苗代湿原と岳岱自然観察教育林(秋田県藤里町：米代西部森林管理署管内)

の3コースに分けての自然見学会を実施しました。当日は、青森県、秋田県などから約60人が参加しました。

青森県側は、朝から雨というあいにくの天気で一部行程の変更がありました。したが、地元でガイドを行っているマダギの工藤光治氏、工藤茂樹氏らの案内により、参加者はマザーツリーやふれあいの道などのブナ林を散策し、ブナの森が雨を蓄える機能や樹幹を流れる雨の様子を観察しました。

一方、秋田県側では、天候に恵まれ、藤里町で自然保護活動を行っている鎌田孝一氏の案内により、田苗代湿原、岳岱自然観察教育林のブナ林のおいたちなどを学びながら秋の白神山地を歩きました。



鎌田さんの説明を聞く参加者(岳岱コース)

みどりの東北



社会貢献の森「あきぎんの森」で 森林再生

～クロマツ林の下刈などに70名が汗～

——— 由利森林管理署

7月30日(土)、水林国有林に設定された「あきぎんの森」において、秋田銀行役員及び家族70名が、過去2年間に植樹したクロマツ林の下刈作業などに汗を流しました。

「あきぎんの森」は、本年5月31日に株式会社秋田銀行と由利森林管理署の間で締結された「社会貢献の森における森林づくり活動に関する協定書」(名称「あきぎんの森」)に基づくもので、秋田銀行創業130周年記念事業の一環として、松くい虫被害を受けた水林国有林の再生を目的に設定され、活動は平成26年3月末まで行われることになっています。

開会式では、秋田銀行の佐々木専務から「クロマツの生育を助けるために手入れも大事。数十年後に立派な海岸林が再生することを祈りたい」と挨拶があり、当署須藤署長からは「この度の大地震においても海岸林が津波の威力を弱めると実証されており、皆様の力を借りて、水林の海岸林を再生させたい」と挨拶しました。

開会式の後、当署職員から作業指導を受け、参加者はクロマツ林の下



下刈の様子

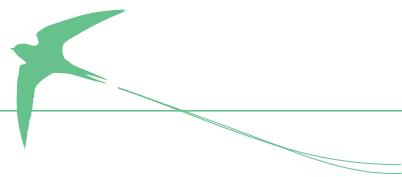
刈と天然生クロマツ林の除伐作業(本数調整伐)の2班に分かれて作業を行いました。各々、下刈鎌や草刈鋏、ノコギリを持って、曇り空とはいえ真夏の日の中、汗だくになりながら約1時間で作業を終えました。

銀行職員のお母さんと一緒に参加した子供さんは「太い雑草がなかなか切れなくて難しかったけど、小さいマツにお日様が当たるようにしたい」と、懸命に草刈鋏を動かしていました。



参加された皆さんの笑顔

本協定は平成21年7月13日に協定された「森林再生ボランティアの森づくり活動に関する協定書」の継続となるもので、過去2年間の活動として、0.58haにクロマツ2600本の植栽(うち、抵抗性マツ250本)と、区域内にある0.19haの天然生クロマツの除伐作業を実施し、秋田銀行役員及びその家族延べ390名が参加しています。



ブナ巨木と素材生産 事業地等の見学会を実施

三八上北森林管理署



9月10日(土)素材生産現場・製材工場の見学等、木が伐採され製品として利用されるまでの一連の流れを体験し理解を深め、木材の利用促進を図ることを目的に「森林と木を知るツアー」と題し見学会を実施しました。

当日は、公募による参加者7名が当署前に集合し、最初の目的地である素材生産請負現場に向かい、野辺地林業有会社の方々の実演により、初めてチェーンソーでの伐倒作業から造



高性能林業機械を間近に見学

材作業までの一連の作業を見学しました。次に高性能林業機械であるブ口セッサによる枝払い、造材作業を見学し、初めて見る伐倒の迫力や人力の3分の1の早さで丸太にしてしまう高性能林業機械の早さと正確な



各地からの 便り

動きに感心していました。

次に、日本のブナの巨木を見学しました。このブナは「森の神」と呼ばれ平成19年に二本のブナとしては、日本一と全国巨樹・巨木林の会から認定されています。

また、近くにあるキハダの見学も行い、参加者は、予定時間を忘れるくらい森林の木々の中で癒やされました。午後からは、上北森林組合・木材



日本一のブナ巨木「森の神」

加工センターを見学し、初めて見るコンピュータ化された最新の製材機械とシステム化された作業仕組みや、ECOである木質バイオマスボイラーに感心している様子でした。

最後に青森県産材使用長寿命化住宅「いわ木の家」モデルハウスを見学、県の担当者から青森県産材エコポイント制度の説明などがあり、本日のツアーを終了しました。

参加された方々からは、「楽しかった」、「知り合いにも紹介したい」などの声が聞かれ、今後も継続したPR活動が必要と改めて感じました。

早池峰山巡視員・森林官へ 感謝状授与

三陸北部森林管理署



宮古市(旧川井村)、花巻市、遠野市にまたがる早池峰山及びその周辺地域は、森林生態系保護地域に指定されており、当署では、公募により7名の一般の方を巡視員に任命し、5月から11月にかけて保護管理、普及啓蒙活動を行っています。

巡視員の福地末治さんは、昨年9月初旬、「カスミ網」による違法密猟の跡を発見し、宮古警察署に通報するとともに、9月4日(土)、5日(日)の両日、当該地域を管轄する川井首席森林官と地元駐在所さんと一緒に明け方近くまで張り込んで2組4名の密猟者を取り押さえました。この協力と貢献に対して、宮古警察署長より、去る7月26日に福地さんに、8月2日に川井首席森林官に感謝状が手渡されました。

早池峰山及びその周辺地域には、県内外から数多くの方が訪れる一方で、



感謝状を手にした巡視員の福地末治さん



みどりの東北



実物大のイヌワシとノウサギで説明

9月12日(月)、岩手県大船渡市日頃市地区の国有林において、大船渡市立日頃市小学校児童20名、一般公募参加者4名と、ノウサギの隠れ家作りのイベントを行いました。

現地は昨年度に、希少猛禽類イヌワシの採餌環境を整備するため、等高線方向列状間伐を実施した箇所、隠れ家の材料には現地間伐材を使い

小学生とノウサギの隠れ家作り体験活動を実施
 生物多様性の保全を学ぶ
 三陸中部森林管理署



高山植物の盗掘・盗採、野生生物の密猟(漁)といった環境犯罪が後を絶たないのが事実です。当署では、引き続き、巡視員や地域の方々、関係機関と連携をとりながら早池峰山周辺森林生態系保護地域の保護管理に二層努力していきたいと考えています。

ました。

イベントの前段では、職員がそれぞれ実物大のイヌワシプレート・ノウサギぬいぐるみを使いながら、全国有数のイヌワシ生息地である気仙地方の特徴的な生態系を紹介し、イヌワシを守ることで地域の生態系の包括的な保全に繋がること、生態系のバランスと生物多様性保全の大切さを講義しました。



作業後に隠れ家とぬいぐるみを囲み記念撮影

地域に希少なイヌワシが生息していることを学んだ児童達はノウサギの隠れ家作りを汗だくになりながら、それぞれ創意工夫し17基完成させました。

作業終了後の感想では、「ノウサギの気持ちになって、入りやすいように工夫した。」「上に木の枝を置いて、隠れ家からイヌワシが見えるようにした。」「疲れたけど、初めての体験で楽しかった。生きもののことに興味があった。」と話し、森林の中での生



等高線方向列状間伐地での作業

物多様性の体験活動に満足した様子でした。

当署では今後とも地域の特徴を活かし、森林の大切さを学ぶイベント等を開催し、児童生徒の環境教育を充実させたいと考えています。

平成23年度東北森林管理局
 インターシップの実施
 米代西部森林管理署



東北森林管理局では、管内の大学生等を対象に、森林管理局・署における実際の行政実務を体験することにより、学習意欲の喚起と職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらおうことを目的に、毎年インターシップを実施しています。

今年度は、岩手大学農学部(農学)の学生2名を対象に、8月29日(月)～9月2日(金)までの5日間の日程で、米代西部森林管理署の管内において実施しました。

初日は、開校式の後、米代西部森林管理署長から管内概要等の説明がありました。

二日目は、輪尺や測高器を使用したの立木調査やコンパスを使用して境界管理手法、造林事業の請負箇所における監督業務などについて体験した他、「風の松原」など海岸林における治山事業箇所を見学しました。

三日目は、林道の改良工事と生産請負現場にて、共に現場代理人から直接話を聞く事ができました。特に、列状間伐実施地におけるスイングヤーダやプロセッサなどを使用しての



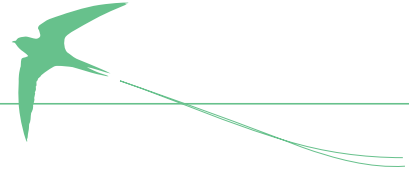
署の概要等について聞き入る様子

作業箇所では、初めて見る大型機械に興味津々の様子でした。

四日目は、岳岱自然観察教育林と仁鮎水沢スギ植物群落保護林において巡視活動を体験し、天然秋田杉の巨木を見て驚きの声も出していました。最終日は、地元の神馬銘木及び秋



みどりの東北



田県銘木センターへ出向いて地域材の利用状況を学びました。

米代西部森林管理署の業務を体験した学生からは、「大学の講義では学ぶことができない貴重な就業



原木販売についての説明

体験ができ、自分の将来について非常に参考となった。「森林・林業に対する理解がより深まり今後の勉学の励みとなった。」などの感想がありました。

今回の就業体験により、彼らが少しでも多くの見識を深め、将来、森林・林業の牽引者となってくれることを心より期待します。

「森林鉄道企画展」開催中

指導普及課

仁別森林博物館において、森林鉄道企画展を11月3日まで開催し

ています。

森林鉄道とは、森林から生産された丸太を町の貯木場などへ運ぶための鉄道のことです。

森林鉄道が無い時代は、流送といって、河原で丸太を筏などにして川に流し(筏流し)、貯木場まで運んでいましたが、水嵩が少ないところでは川底の石などに丸太がぶつかって痛めたり、紛失するものもあつたそうです。



筏流しの様子

日本の森林鉄道は、津軽森林鉄道が明治42年に開通したのが初めてです。その後、全国各地に森林管内での総延長は、463路線で、2939kmに達しました。

この間、第一次及び二次世界大戦の資材供給や、戦後復興のための住宅部材の供給、そして、高度経済成長を支えるなど、日本の近代化

のための一つとしての木材産業を牽引しました。

また、森林鉄道は、時には客車を



地域住民を乗せている様子

連結して、沿線住民を運ぶなど、地域の発展に欠かせない存在となっていました。

昭和30年代に入ると、トラックなどの性能が向上し、自動車による輸送が急成長していきます。

これとは逆に森林鉄道の役割は急速に無くなり、東北では、昭和47年には全ての森林鉄道が廃止され、その役目を終えました。

廃線後の軌道は、地域住民の生活道路や林道、歩道などへとその



蒸気機関車ボールドウィン号

姿を替え、現在でもその面影を見ることが出来ます。

このような歴史を後世に伝えるため、図表や写真、詳細データをそろえ企画展を開催しています。

仁別森林博物館では、当時稼働した蒸気機関車ボールドウィン号(米国ボールドウィン社製・B1リアタンク機)や8tボギー式ディーゼル機関車D-29(酒井製作所製)が展示されており、D-29には乗車も可能となっています。

敷地内では、軌道跡や務沢駅跡を見ることができ、また、近くには天然秋田スギが残っていて、その林内の散策路も整備されています。秋の紅葉を楽しみながら森林鉄道企画展へお越し下さい。なお、開館時間など詳しい内容は、東北森林管理局のホームページをご覧ください。



森林鉄道展を見学する様子

mini column

「へえ〜、そうなんだ!」

クモ

指導普及課長

青山一郎

Ichiro Aoyama

馬が肥えるという秋、路傍のジョロウグモも肥えてきた。巣を張る造網性のクモで、大きな巣に悠々と構える、待伏獵の名手だ。中央にいる大きく派手なのは雌で、よく見ないと気づかない小さく地味な雄が巣の隅に控えているのが名の由来の一つと言われる。

周知のとおり、クモは昆虫とは全く別の仲間で、足の数や頭胸が一体化しているなどの違いがあり、八つの単眼を持つのも特徴。オニグモやコガネグモなどの立派な巣をはる連中が印象的だが、巣をつくらずに獲物を捕らえる徘徊性のものも多い。ハシリグモやカニグモの仲間など。英名ジャンピングスパイダーのハエトリグモは驚異的な跳躍で襲いかかり獲

物を仕留める。正確な距離感を得るため正面の二眼が発達して馴染みやすい顔だ。

生物の写真をよく見ると被写体の目に撮影者が写っていることがある。多いのはヘビやカエルで、相手も真横から見据えているのに改めて気づく。正面からこちらを見つめるハエトリグモの目にも時としてカメラマンがいる。複眼の昆虫にはないことで親近感がわく。

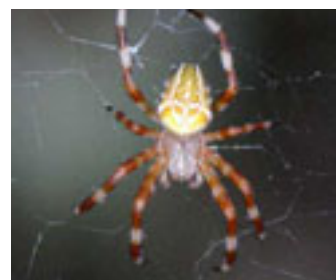
造網性のクモは卵で、徘徊性クモは成体で冬を越すものが多い。空中と地上、それぞれの狩り場での獲物の発生量に適應した生活史になっているのだろう。まもなく山も眠る冬。丸々と太ったジョロウグモもやがて産卵を済ませ彼らの季節は終わる。



コガネグモ



ジョロウグモ



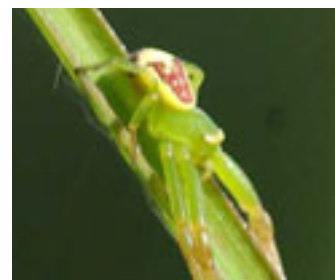
ヤマオニグモ



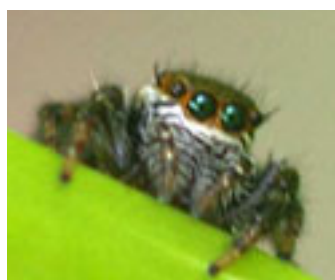
イオウイロハシリグモ



ワカバグモ



ハナグモ



ハエトリグモsp



デーニッツハエトリ

event information



みどりの東北

鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊 「土湯の森」の自然再生について ～キノコのコマ打ちと山取苗採取イベント～

期日 | 平成 23 年 11 月 5 日 (土)
開催場所 | 最上川スキー場跡地 (中腹付近 9:15 集合)
開催内容 | (1) キノココマ打ち (9:30～11:00)
(2) 山取苗の採取 (11:00～11:30)
(3) 森林教室 (11:30～12:00)

募集人数 | 20人程度

参加費 | 無料

対象者 | 一般市民、地域住民及び学生
(学生等の参加の場合は戸沢村役場からマイクロバスの運行も可能です)

申込期限 | 平成 23 年 10 月 31 日 (月)

その他 | 昼食は事務局でご用意します
(水筒は持参のこと)

作業可能な服装 (長袖、長ズボン、長靴、
雨合羽、水筒) を準備下さい。

参加申し込み・お問い合わせ

鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊「土湯の森」
自然再生実施協議会
東北森林管理局
朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター
山形県鶴岡市下名川字落合 3
TEL0235-58-1730/FAX 0235-58-1731
E-mail : t_syounai_f@rinya.maff.go.jp



渓谷の紅葉を堪能

期日 | 平成 23 年 10 月 25 日 (火)
開催場所 | 山形県山形市大字山寺字面白山
開催内容 | 面白山高原の紅葉川渓谷にある
トレッキングコースを紅葉を楽しみながら、
渓谷内にある幾つかの滝を散策する。
募集人数 | 30人
参加費 | 2,000円 (傷害保険料、写真送付料等含む)
申込方法 | 電話により下記までお申し込み下さい。
申込期限 | 定員になり次第締め切りします。
その他 | 集合場所 (面白山高原駐車場) までは各自
責任を持って集合して下さい。
昼食、飲み物、雨具、履物 (登山靴等)、帽子等は
各自で準備して下さい。
参加申し込み・お問い合わせ
山形森林管理署
山形県寒河江市元町一丁目17-2
TEL050-3160-5850/FAX 0237-86-3163



「沢内三千石 お米(よね)の出どこ 枳ではからないで 箕(身)ではかる」

岩手南部森林管理署 新町森林事務所

奈良真吾

Nara Shingo

これは「沢内甚句」の歌詞で、お米はおよね、箕は身であると解釈されています。江戸時代天保の飢饉(1833~36年)では凶作は甚大で、ホシナ(大根の葉を干したもの)やワラビのデンプンで食いつないだ者はまだ良い方で、わらや草の根を掘って食べるという生活は困窮を極めたと伝えられています。そうした背景のなかで年貢米を献上できずに、泣く泣く村の娘(およね)を差し出した悲哀の物語を謡ったものであり、知っている方もいるのではないのでしょうか。

私が勤務する新町・川舟森林事務所はこのような歴史をもつ旧沢内村(現在は西和賀町)を管内とし、和賀山塊の主峰和賀岳(1,440m)を望む美しい地域です。和賀(わが)とは、アイヌ語で「わか(水・水飲み場・清き流れ)」という意味です。その名のとおり冬は優に2mを超える豪雪地で、年間を通し約2,500mmの降水量がある水の豊富な地域です。そして春や秋には日が高く昇るまで霧が立ちこめる日が多いのも特徴の一つではないのでしょうか。このような気候を有した地域だからこそ質のよい山菜が豊富に採れます。特に粘りが強くアクの少ない美味なワラビ、「西(にし)ワラビ」がとれることで有名です。地元では様々な山菜がボリューム満点で食べられる食堂があるのも魅力の一つです。

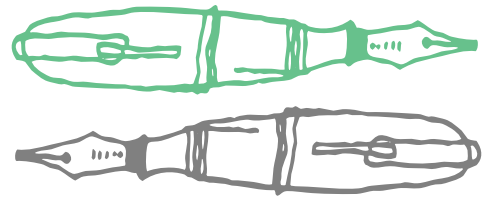
和賀岳のほかにも高下岳や真昼岳といった素晴らしい山



食堂の人気メニュー



貝沢地区より遠望した高下岳



森林官からの手紙

があり、登山の途中では見事なブナ林を見ることができます。また、汗をかいた後には温泉や地ビール(銀河高原ビール)を楽しむことができます。このような自然豊かな沢内に一度足を伸ばしてみたいはいかがでしょうか。

さて、今年5月に赴任し早4ヶ月が経ちました。中でも一晩で250mmを観測した6月末の大雨では自然の猛威を感じさせられ、地元の方がこのような大雨は初めての経験というほどで、多くの林道が土砂崩れの被害にあいました。身をもって林道の重要性を認識させられた機会でもあります。森林官として初めての業務に戸惑いも多いですが、職場の先輩や仲間を支えられながら、何とかやっているところです。近年は各地で異常気象も当たり前ようになってきていますが、それに負けないような山作りを目指して、これからの業務に取り組んでいきたいと思えます。



沢内のシンボル およね像

米代西部森林管理署

〒016-0815 秋田県能代市御指南町3-45

tel.050-3160-5825/0185-54-5511

fax.0185-54-5514

【我が署の名所⑦】
秋田県能代市ニツ井町
―「七座山」

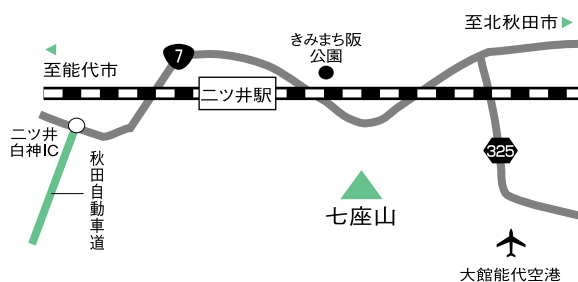


「七座山」
ななくらやま



能 代市の東部(旧ニツ井町)、景勝地「きみまち阪」の対岸に、蛇行する米代川に挟まれて七座山(標高287m)があります。七座山は、古くから信仰の山として知られ、松座、大座、柴座、三本杉座、箕座、烏帽子座、権現座(主峰)の連なる七つの頂は、修験道における修行の場として、それぞれが神の座として信仰の対象になっていたそうです。七座山の「座」という字は「くら」と読み、岩場と

いう意味を持つそうで、山頂付近の巨岩群や浸食された法華岩、洞窟状の権現窟(修験者が寝泊まりしたと言われている洞窟)等の見どころもあります。こうした七座山の東斜面は国有林となっていて、天然秋田杉と様々な広葉樹が覆っている様は、低山ながら原生的な自然美を醸し出しており、七座山自然観察教育林として隠れた名所となっています。



●交通アクセス
秋田自動車道「ニツ井白神IC」から車で10分。
大館能代空港から車で20分。

●東北森林管理局のホームページをご覧ください

www.rinya.maff.go.jp/tohoku/

